

重点取組分野	元 年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
生きてはたらく知	①育成すべき資質・能力を明確にし、「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」の視点から授業改善を図り、学力や学習意識の向上を目指します。 ②「学力向上アクションプラン」に基づいた取組を全学級で実践します。	①年9回の校内授業研究会と1回の公開授業研究会を通し、数学的な見方・考え方を働かせた授業改善に取り組んだ。1時間単位だけでなく単元全体を見通した学びづくりに取り組んだ。 ②スキル・読書タイムの継続、内容を充実させ、基本的な学習事項の定着に努めた。	B
豊かな心	①自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深められるように、道徳授業の充実を図ります。 ②「豊かな心の育成推進プラン」に基づき、自他やまちを大切にしている心情や態度を育みます。	①年1回以上、授業参観での道徳の授業公開を行うことにより、自己を見つめ直し、振り返る道徳の授業について深く考えた。②人権月間には各クラス「人権トーク」を行い、人との関わり方について児童が主体的に考えた。地域との関わりを通して、まちを大切にしている意識を育んだ。	B
健やかな体	①「体育・健康プラン」に位置付けた一校一実践運動「体力づくりタイム」の活動を通して、体力づくりへの意識を高めます。 ②学校保健委員会テーマに基づき、年間を通じ心身ともに健やかでたくましく生きる力を育みます。	①体力づくりタイムの短縄や長縄では、記録を伸ばす児童が多く見られた。持久走では、昨年度までは歩いてしまう児童も見られたが、今年度は歩く児童は見られなくなった。 ②体力づくりタイムや各クラスの取り組みを通じて体力づくりを行う機会を設け、積極的に取り組んだ。	B
特別支援教育	①岸谷スタディールーム【グループ学習(2年～)・算数習熟度別少人数学習(3年～)】を実施します。 ②特別な支援を必要とする子どもに対し、学習支援だけでなく生活支援や友達との関わり方の支援等ができるよう関係機関とも連携しながら、子どもの見取りとその対応を丁寧に行います。	①グループ学習・習熟度別少人数学習を実施し少人数で行うこと、複数の教師で指導することにより、より実態に合った指導を行うことができた。②東部地域療育センターのコンサルテーションや、県立鶴見養護学校のセンター機能を利用し、気になる児童に対する具体的な支援方法を学んだ。	B
学校運営協議会	①各委員による行事や授業の参観後、学校運営に反映させていくための協議を行っています。 ②委員からだけでなく、授業参観や運動会・岸谷ふれあいコンサート等の学校行事等、年間を通して保護者から授業評価や学校評価のアンケートをとり、授業や行事、学校運営の改善に努めます。	①協議会委員より、行事や授業参観後に給食ミーティングの場でご意見を伺い、学校運営に反映させることができた。②保護者のアンケートでは、マチコミを活用し意見を集め、行事への関心の深まりを感じ取ることができた。ご意見を受けより良い形態や運営に役立てたい。	B
いじめへの対応	①いじめの起きにくい学級風土づくりや子どもの健全な発達を促すために、「子どもの社会的スキル横浜プログラム」を取り入れた実践を計画的に位置づけ、親和的な集団づくりを進めます。 ②個性の尊重、相互理解や共感を大切にした魅力ある授業を展開していくように努めます。	いじめ防止委員会の定期開催、いじめ解決一斉キャンペーンの取組、YPアセスメントによる学級風土分析等を通じ、いじめの早期発見、早期解決の取組を組織的に進めた。道徳の授業、人権月間の取組を通じて、個性を認め合う、また、いじめを予防しようとする児童の意識の向上にも努めた。	B
人材育成・組織運営(働き方改革)	①5年次以下の教員でステップUPチーム・キャリアUPチームを組織し、授業や研修を通じ学習指導・児童指導のスキルUPを図ります。②キャリアUPチームによる不祥事防止研修を実施し、互いに相談できる職場環境づくりを進めます。③年間を通して業務の改善・効率化の視点をもち働き方改革を進めます。	①ステップアップチームでは、月1回クラス運営や学習指導について情報交換を行った。また、研究授業や夏のミニ研修会を行い、様々な教科・領域について学ぶ機会を設けた。②月1回、不祥事防止研修を行い、意識の向上に努めた。③業務改善シートを活用し、全体で共有・改善を行った。	B
ブロック内評価後の気付き	9月の小中一貫教育推進ブロック授業研(道徳)では、「命の大切さ」をテーマに設定し、ブロックで育成を目指す子ども像「学習や生活の良い習慣を身に付け、自分の力を伸ばそうと努力する子ども」について、活発な意見交換をすることができた。 2月ブロック内地域協働で行った大合奏では、小中一貫教育推進会議で確認された、将来自立していくために小学校・中学校を通して身につけたい基礎力を意識した活動が行われ、9年間を通して育成を目指す資質・能力の明確化に向けた取り組みの充実が図られた。		
学校関係者評価	言語活動の充実や、国語の基礎学力を向上させるためにも、読書は大切と考える。読書活動の時間を確保してほしい。保護者アンケートを行事や学校運営に役立てるために積極的に行っていることはよい。今年度からはマチコミのネットからのコメント入力になったので、感情的にコメントしてしまう保護者もいると考えられる。無記名で少人数の意見に流されることなく、学校としてしっかり対処してほしい。いじめ対応について学校側は研修や話し合いを重ねているが、実際にいじめている意識がなかったり、当事者もいじめられている意識がなかったりするので、お互いの立場について伝えてほしい。		
中期取組目標振り返り	「生きてはたらく知」では、スキル読書タイムのスキルタイムの内容を充実させるよう努めてきたが、今後は言語活動の充実のために、読書活動にも力を入れていきたい。「特別支援教育」ではグループ学習・習熟度別少人数学習を実施し少人数で行うこと、複数の教師で指導することにより、より実態に合った指導を行うことができた。今後グループ分けについてはより良い形を検討していきたい。「学校運営協議会」では、保護者アンケートをしっかりと分析していくが、少人数派の意見に流されることなく、学校運営に役立てていきたい。		

重点取組分野	2 年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
生きてはたらく知	b1		
豊かな心	b2		
健やかな体	b3		
特別支援教育	b4		
学校運営協議会	b5		
	b6		
	b7		
	b8		
いじめへの対応	b9		
人材育成・組織運営(働き方改革)	b10		
ブロック内評価後の気付き			
学校関係者評価			
中期取組目標振り返り			

重点取組分野	3 年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
生きてはたらく知	c1		
豊かな心	c2		
健やかな体	c3		
特別支援教育	c4		
学校運営協議会	c5		
	c6		
	c7		
	c8		
いじめへの対応	c9		
人材育成・組織運営(働き方改革)	c10		
ブロック内評価後の気付き			
学校関係者評価			
中期取組目標振り返り			